

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
(発達障害早期支援研究事業)
成果報告書 (概要版)

実施機関名 (彦根市教育委員会)

1. テーマ

多層指導モデルMIMによるLD等、学習面で特別なニーズが疑われる児童の早期発見・早期対応の在り方 ～誰がつかずくのか どこでつかずくのか～

2. 問題意識・提案背景

非日本語話者にとって、日本語の特殊音節の理解には困難を示す。たとえば、「根っこ」の促音は、スキップさせる音ととらえ「ね こ」と一拍空けて発音する学習者が多い。次に続く文字によって発音の仕方が変わるので、非日本語話者にとっては難しい音である。同様に小学校1年生の児童にとっても1対1対応にならない文字の読み書きは発達年齢的にも難しい。一般的に書き言葉の獲得は8歳といわれていて、6歳児、7歳児で構成される小学校1年生には、やや困難な課題と言える。多くの児童が1年生段階で獲得するものの、獲得できずに2年生へ進む児童がいることは否めない。勉強嫌いとはまではないかなくても、苦手意識を早い段階で作ってしまい、入門期における読み書きの指導はその後の学力に影響を及ぼすことが容易に想像できる。特に特殊音節の学習の影響が少なからずあり、特殊音節の獲得に困難を示す児童は、その学習の困難さからLDをはじめとした発達障害の可能性があると想定できる。

そこで、平成27年度も平成26年度に引き続き、国立特別支援教育総合研究所(以下 特総研)の海津亜希子研究員と連携して、特殊音節の指導を多層指導モデル(Multilayer Instruction Model 略称MIM)の考え方を導入する。

特殊音節の指導について、視覚聴覚に動作化を加えた多層指導モデルMIMの指導方法によって指導すること、および定期的に行う各児童の評価を特総研の海津研究員と共有することで、LDを中心とした発達障害の可能性が疑われる児童の早期発見に努める。

また、学習指導を行う際、アセスメントに基づく指導の充実を図ることにより、発達障害の可能性のある児童への早期発見と指導法の開発・検証を行い、市内教員の指導力の向上を図るものとする。

3. 指定校について

(市内全 17 小学校)

平成 27 年 9 月 1 日現在

指定校名：彦根市立城東小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	45	2	51	2	61	2	51	2	53	2	52	2
特別支援学級	2		2		1		1		0		1	
通級による指導の対象者数			2		1		2		2			
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育職員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	16	1	1	0	1	1	0	4	26	

指定校名：彦根市立城西小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	58	2	79	3	66	2	60	2	66	2	66	2
特別支援学級	1		0		2		5		2		1	
通級による指導の対象者数					5							
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育職員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	17	1	2	0	1	1	0	4	28	

指定校名：彦根市立城南小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	151	5	140	4	138	4	118	4	153	5	146	5
特別支援学級	6		2		4		3		7		5	
通級による指導の対象者数	7		4		1		4		3			
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育職員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	37	2	2	0	2	2	0	9	56	

指定校名：彦根市立平田小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	33	1	41	2	35	1	29	1	47	2	46	2
特別支援学級	0		0		1		2				5	
通級による指導の対象者数	1		3		1				1		1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育職員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	14	1	2	0	1	1	0	2	23	

指定校名：彦根市立城北小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	49	2	38	2	43	2	36	1	41	2	48	2
特別支援学級	1		1		2		0		0		1	
通級による指導の対象者数							1					
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	15	1	1	0	1	1	0	2	23	

指定校名：彦根市立佐和山小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	103	3	80	3	107	4	91	3	84	3	96	3
特別支援学級	3		4		1		1		2		3	
通級による指導の対象者数	1		3		2				2			
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	26	1	3	0	1	1	0	5	39	

指定校名：彦根市立旭森小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	122	4	118	4	123	5	141	4	95	3	140	4
特別支援学級	3		3		4		5		4		1	
通級による指導の対象者数	1		2				1					
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	32	1	2	0	2	2	0	8	49	

指定校名：彦根市立城陽小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	39	2	47	2	44	2	34	1	42	2	53	2
特別支援学級	1		1		0		0		2		1	
通級による指導の対象者数			3		1							
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	15	1	2	0	2	1	0	2	25	

指定校名：彦根市立若葉小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	30	1	22	1	47	2	35	1	30	1	39	2
特別支援学級	1		1		1		0		0		2	
通級による指導の対象者数	3											
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	10	1	1	0	1	1	0	3	19	

指定校名：彦根市立金城小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	104	4	112	3	91	4	113	3	96	4	111	4
特別支援学級	4		4		5		5		3		3	
通級による指導の対象者数	3				2							
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	31	1	0	0	1	1	0	6	42	

指定校名：彦根市立鳥居本小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	26	1	16	1	16	1	24	1	19	1	12	1
特別支援学級	2		1		1		1		2		3	
通級による指導の対象者数												
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	11	1	1	0	1	1	0	1	18	

指定校名：彦根市立河瀬小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	87	3	69	2	86	3	78	3	69	3	68	2
特別支援学級	0		2		2		1		2		4	
通級による指導の対象者数	5		3		2		2		1		1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	22	1	2	0	1	1	0	9	38	

指定校名：彦根市立亀山小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	17	1	28	1	26	1	22	1	27	1	21	1
特別支援学級	0		2		0		2		0		1	
通級による指導の対象者数			1		3							
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	9	1	0	0	1	1	0		1	15

指定校名：彦根市立高宮小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	103	3	88	3	71	3	71	3	81	3	72	3
特別支援学級	2		1		2		3		2		6	
通級による指導の対象者数	3		1		2							
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	24	1	2	0	1	1	0		9	40

指定校名：彦根市立稲枝東小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	60	2	70	2	56	2	67	2	79	3	70	2
特別支援学級	2		2		1		1		1		1	
通級による指導の対象者数	2		1		1							
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	19	1	0	0	1	1	0		5	29

指定校名：彦根市立稲枝西小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	16	1	17	1	20	1	12	1	19	1	23	1
特別支援学級	1		1		0		1		2		0	
通級による指導の対象者数					2							
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	10	1	1	0	1	2	0		1	18

指定校名：彦根市立稲枝北小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	13	1	15	1	13	1	20	1	14	1	14	1
特別支援学級	1		2		1		0		0		1	
通級による指導の対象者数												
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	8	1	1	0	1	1	0	2	16	

4. 指定校における取組概要

<p>①目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約 6.5%在籍するといわれる発達障害児のうち 75%の児童について発達障害の課題が見える前に指導を行う体勢を構築する。 ・担任が児童の発達課題に合った指導方法を研修する。 ・担任が発達障害の可能性が疑われる児童の早期発見、早期対応できるよう専門性を高める。（「誰がつまずくのか」「どこでつまずくのか」を意識し、個に応じた指導を進めることができるようにする。） ・平成 26 年度、27 年度の 2 カ年で、市内小学校教員の約 4 割が発達に応じたアセスメントや指導方法を身につける。 <p>②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化</p> <p>国立特別支援教育総合研究所の海津亜希子研究員の研究に基づく、MIM (Multilayer Instruction Model 多層指導モデル) の導入を図る。</p> <p>小学校 1 年生での、特殊音節の習得に重点を置いて、どの子にとってもわかりやすい授業の構築を図り、一斉指導の中で習得をすることが可能な児童 (1st ステージ)、一斉指導の中での個別指導を必要とする児童 (2nd ステージ)、集団から取り出しての個別指導を必要とする児童 (3rd ステージ) の 3 つの段階に児童を捉え、それぞれのステージに応じた指導を行う。</p> <p>そのため、毎月 1 回特殊音節の習得状況を確認する MIM-PM アセスメントを行い、その結果から作成される個別の配慮計画に基づき、児童がどの段階にあり、どのような支援を必要とするのかを把握する。</p> <p>③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容 ○特殊音節指導の際、視覚化、動作化、音声化の導入 <p>児童が、特殊音節の学習をする際、文字による指導のみでは学習面等に何らかの困難を示す児童にとって習得が難しいことが考えられる。</p> <p>そこで、特殊音節の指導の際、音声と文字を直接つなげるのではなく、その間に、視覚化や動作化を取り入れ、文字と音声スムーズにつながるようにした。</p>

具体的には、前述の海津研究員の研究成果を導入し、文字を使う代わりに大きな丸や小さな丸、または棒を文字の横に掲示し、音のイメージを掴ませた。また声に出しながら、手を叩いたり、握ったりする動作をすることで音のリズムを掴ませた。

この指導の工夫については、指定校のうち、高宮小学校の教員が市内の1年生教員に対して公開授業を6回設定し、その参加を呼びかけることで具体的な指導法の共有化を図った。

・放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容

前述のMIM-PMアセスメントに基づく、2ndステージおよび3rdステージに相当する児童に対しては、全体指導だけではなく個別の指導支援が必要となる。

文字を言葉として捉えるためには、語彙を増やすこととともに、流暢に読むことが必要となる。そこで、2ndステージ相当の児童については主として全体指導の中で、3rdステージ相当の児童については主として休み時間等を活用した取り出し指導を行った。その際、早口言葉カードや言葉遊びカード等を活用し、単に繰り返しの学習にならないよう工夫を行った。

④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法

MIM-PMアセスメントの結果から個別の配慮計画を作成し、特殊音節の学習でそれぞれの児童の抱える課題（促音、拗音、長音、拗長音のどこが習得しにくいかなど）を把握し、それに基づき、個別の支援を進めた。アセスメントを毎月1回することにより、その結果から客観的に、それぞれの指導の成果と課題を毎月確認し、どの児童にどのような課題に応じた指導を進めたらいいのかをはっきりさせた。

5. 主な成果

視覚化、動作化を取り入れた特殊音節の指導について、小学校1年生の担任等を中心に昨年度に引き続き4回研修会を行った。本年度も、のべ100名以上の教員が研修会に参加することで、音声と文字を直接つなぐのではなく、間に視覚支援や動作化を入れることにより、児童にとって特殊音節の習得がしやすくなるということが、市内の教員に浸透してきた。

また、指導とアセスメントを定期的に行うことで、アセスメントの大切さをどの教員も理解するとともに、従来からの教員の経験に頼った児童理解から、客観性のある児童理解につながった。

本市は、若手教員の増加に伴い、教員の指導力の向上が大きな課題となっているが、市内全体で同一の指導法を取り入れることで、学校間での取組の交流がスムーズになり、教員の指導力の向上の一助となった。

また、MIMは決して特殊音節の指導だけではなく、どの子にもわかりやすい指

導をすることで、本当に個別の指導を必要とする児童に必要な支援を行うというものである。そのため国語科だけではなく他の教科においても丁寧な指導を行うことの必要性の理解につながった。

昨年度からの継続した事業のため、指定校によっては、この取組を保護者に伝え、参観日等で特殊音節の指導をしたうえで家庭での協力を求めるなど、家庭教育との連携を図ったり、放課後に全校一斉に「ことばの時間」を設定し、その中で本取組の充実を図ったりするなど、それぞれの指定校が、学校の実情に応じて取り組むことができるようになった。

6. 今後の課題と対応

本年度までの2年間でMIMの考え方に基づく指導の大切さは、教員に共通理解されてきている。また、定期的に客観的なアセスメントを行い、それに基づいて指導をすることについても定着しつつある。

2年間の文部科学省による委託事業は終了するが、本市における発達障害の可能性のある児童について、その早期支援はますます今後重要になると考えられる。

そこで、次年度以降も市の単独事業として、MIMの考え方に基づく、どの子にもわかりやすい指導と個別支援、そして定期的なアセスメントを継続して行うこととする。

しかしながら、1年生の担任は毎年変わっていくことに加え、MIMの考え方は決して1年生の特殊音節の指導に限定されるものではないため、昨年度本年度研修を受けていない教員を含め、彦根市の教職員の全体の資質向上を図ることが必要である。

本年度と同様に研修会を開催し、MIMの考え方に基づく指導を行うための、理論や指導法について学ぶ機会を設定し、教職員の指導力の向上を図ることを検討している。

また、3rdステージに相当する児童への支援のため、取り出し指導を行うためには、1年生だけではなく学校体制で指導に取り組む必要がある。そこで管理職を中心とした研修会を開催し、本年度以上に学校としての体制が構築できるようにする。

MIM-PM アセスメントの活用について、現在市では個別の支援計画を作り、合理的配慮を含め、本人および教職員の指導体制の共通理解を図っているが、さらに有効に活用するため、MIM-PM アセスメントの結果を個別の支援計画の一つの視点として、従来からの支援計画との連携を図っていくことが必要であり、今後研究を進めていく。

7. 問い合わせ先

組織名：彦根市教育委員会

- (1) 担当部署 学校教育課
- (2) 所在地 滋賀県彦根市尾末町 1-38
- (3) 電話番号 0749-24-7973
- (4) FAX 番号 0749-23-9190
- (5) メールアドレス Hikone-gakkyou@mx.hikone.ed.jp